梅村翠山　版刻家、真佛法布教家、俳人。天保十年十一月上總國武射郡南蓮沼村生れ、明治三十九年六月歿（一八三九―一九〇六）。講溢、字仲基、通稱友之吉。別號不識庵主人、桂巖道人、翠山居士等。少時銅版術在るを知るも師を得ず、獨力で研鑽すること十餘年、一家を成して諸藩の紙幣版下を鐫り、また島津氏の囑により本邦初の鉛版活字を考案製造。文久三年「徳川將軍上洛圖」ニ種を刻し、慶應四年五月には彰義隊中有志の要請で銅版繪入新聞を發刊した。維新後門生をアメリカに派遣、專門技師を招致して石版印刷業を創始するなど、斯界の基礎を築いた。

後年協信教會に入り（のち會長）、活用真佛法を唱へて『永平假名法語』（明治十五年四月協信社藏版）を校正刊行した他、『初學安心起行辨』（明治十九年四月自版、伊藤清九郎發兌）等多數の著述を成してその布教に努めた。一方俳諧にも一家言を有ち、「正風古池吟解」、「俳禪餘談」（全集所收）を書き、句作も残した。『翠山全集』（大正五年八月十一日梅村芭雄編刊）がある。